



中医学における「肝」

黄 懷龍

当資料の転載、複製、改変等は禁止いたします。

一、概 論

肝は横隔膜の下、右上腹にあり、胆と隣り合い、表裏関係をなしている。

解剖学的に、西洋医学の肝臓・胆嚢に合致するが、生理機能からみると大きな異なる。

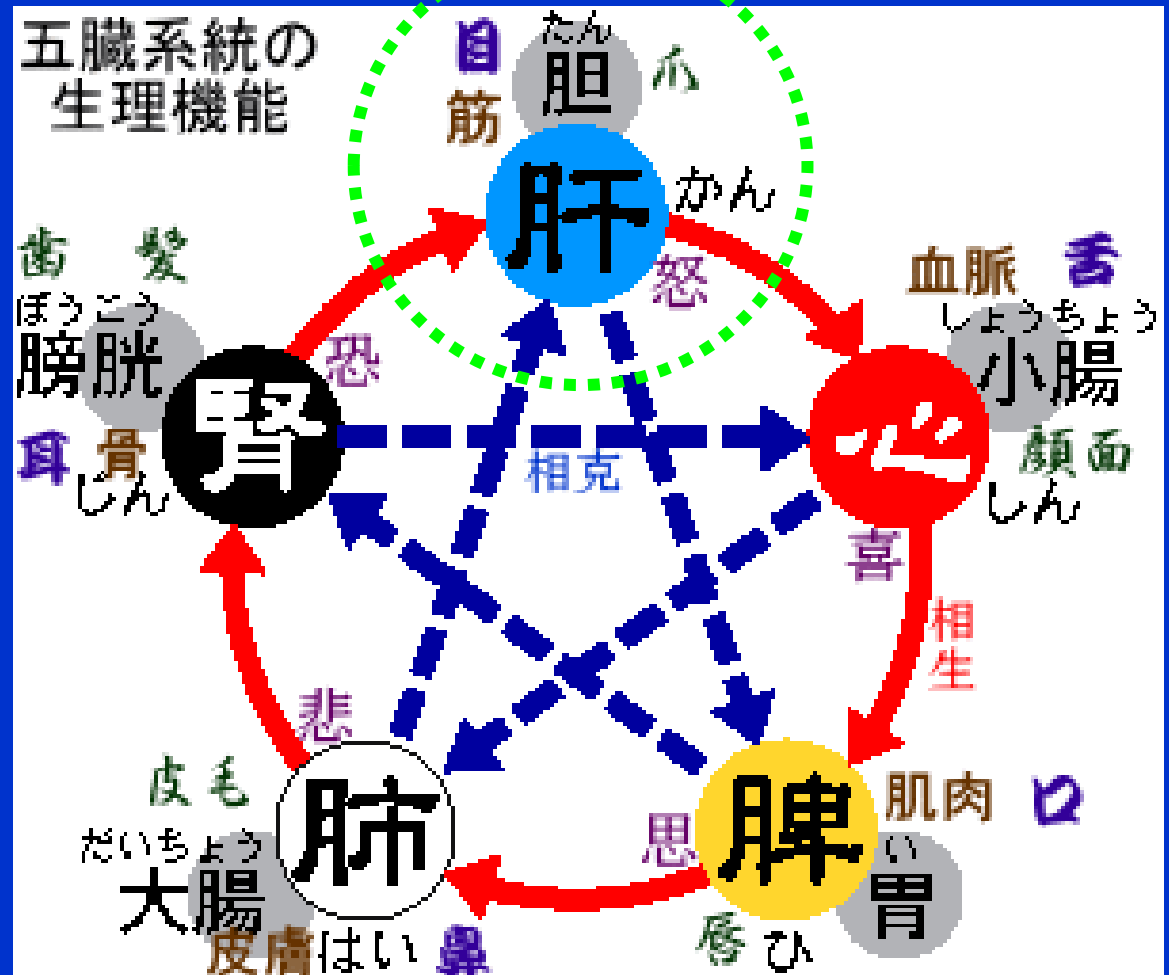
肝は「疏泄を主る」「血を蔵す」「筋を主る」「目に開竅する」「その華は爪にある」である。

肝胆機能一部以外に人体の中樞神経も含めた情緒系、自律神経系に近似する。



五行学説一肝は木に属する

五行	木
五臓	肝
五腑	胆
五志	怒
五体	筋
五官	目
五色	青
五気	風
五華	爪



二、肝の生理機能

(一) 疏泄を主る

疏泄の疏とは疏通、流暢で、泄とは宣泄・発泄・昇発の意味である。

肝は木に属し、「条達を好み」

「条達」は伸暢・昇発の意味で、肝の昇、動の生理特徴により、全身の気機を調節し、血液と津液の運行をのびやかにおしすすめる。



1、気機の通調

気の昇・降・出・入運動を流暢、通達し、全身の機能活動をのびやかに行わせる。

肝の疏泄機能が正常であれば、気機が通暢である現れとして、気血は調和し、経絡は通利し、臓腑器官も正常に活動する。

「気行則血行、気滞則血瘀」

「気行則水行、気停則水停」

2、情志の疏泄

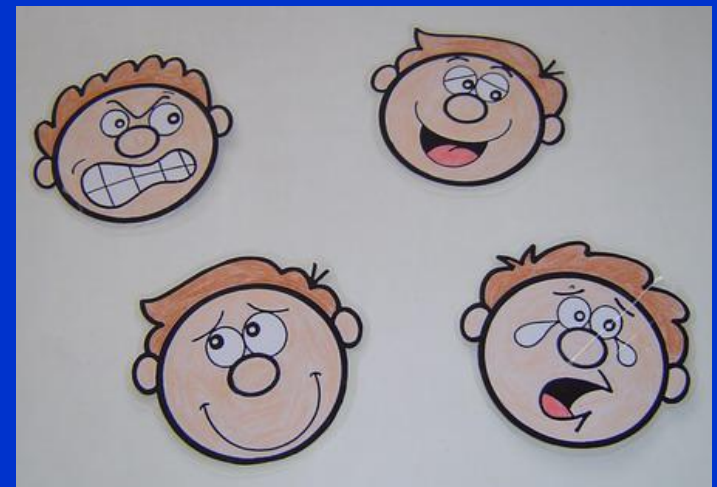
精神情緒をのびのびと調節し、自律神経バランスをよくする。（精神活動と自律神経）

（七情・五志即ち精神・意識・思惟・情緒などをのびのびと愉快に保ち、興奮や抑うつを来たさないようにすることである）。

七情：喜・怒・優・思・

悲・恐・驚

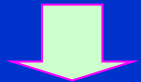
五志：怒・喜・思・悲・恐



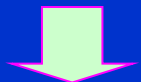


肝気疏泄と陰陽平衡

肝気疏泄



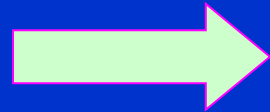
気血調和
臓腑機能正常



自律神経系は免疫系と内分泌系と協調しながら、種々の生理的パラメータを調節しホメオスタシスHomeostasisの維持している状態。

自律神経系

陰陽平衡



ホメオスタシス
三角形

免疫系

内分泌系

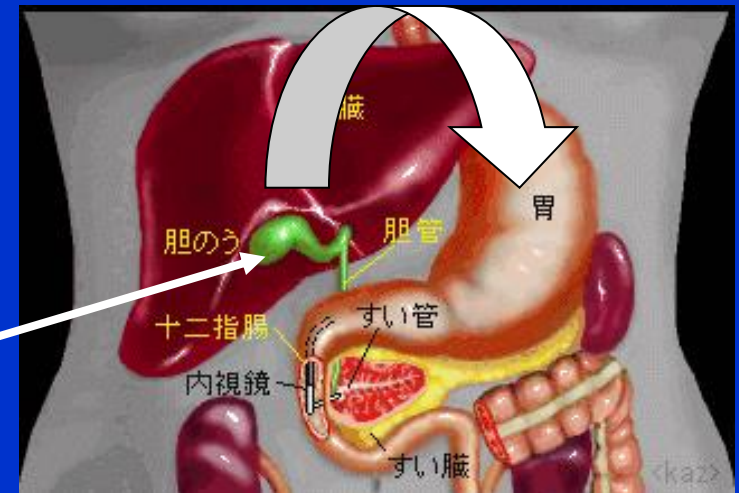
3、消化の促進

肝の疏泄機能が正常であることにより、脾の昇清と胃の降濁の協調平衡を維持し、運化を正常に行わせることである。

消化吸收機能を促進する（特に胃腸の運動や胆汁分泌を促進する）。

六腑は「以降為順、以通為用」。

胆は「肝の余氣」である精汁（胆汁）を蔵す。

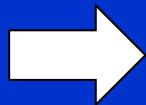


4、衝・任脈の調節

衝・任二脈は足厥陰肝経に通じ、肝に属されるので、肝血が衝脈を通じて子宮に下注する。

「肝は血を蔵し、衝脈は血海である」。

肝気疏泄



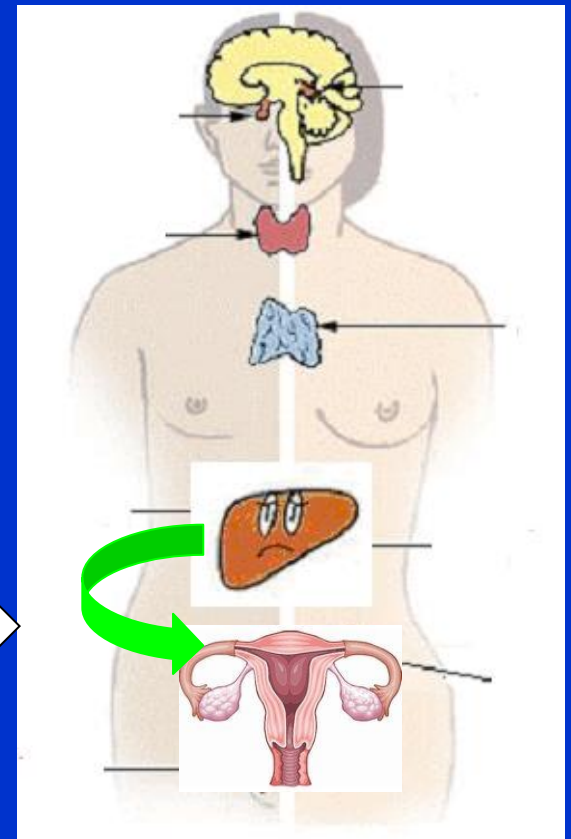
衝任通暢



月経正常



女性「以血為本」



(二) 蔵血を司る

「血を蔵す」とは、血液の貯蔵と調節を意味する。

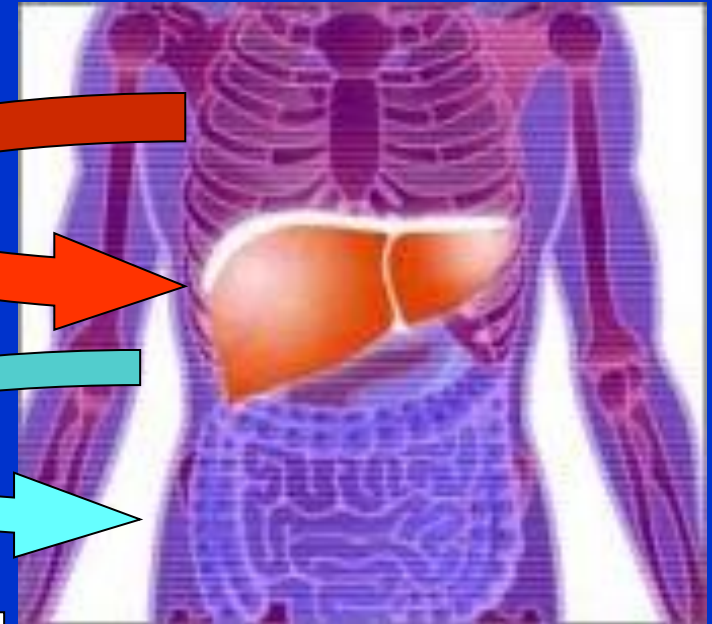
睡眠など体が静止

血が肝に
貯蔵する。

体が動いている時

血を肝
から出
す。

肝気疏泄





肝血と五体・五官



肝血状態が爪の色艶に反映される。

「その華は爪にある」



肝血が目に上注

「目に開竅する」

肝は血を蔵す



肝血が衝脈を通じて子宮に下注する

女性は「以血為本」



肝血が筋を濡潤する

「筋を主る」

(三) 肝の生理特徴

条達を好み
鬱滞を嫌う

のびのびとする、肝気は上昇する特性を持っているので、暢達することによってその特性が正常に維持されます。

肝は剛臓で

肝は「剛臓」で、その気は上昇亢進しやすいし、逆動しやすい。肝の陽気が強すぎると、怒りやすいということです。

「将軍の器官」と呼ばれています。

体陰用陽

- 肝は「陰を体とし陽を用とす」といわれ、肝の本体は陰であるが、機能は陽です。肝の正常な機能は陰血の滋養に頼っているが、その調暢気機の機能が陽気である。陰血の重要性が強調されている。
- 肝の陽気による疏泄の機能（用）は、陰血という物質的基礎（体）をもとに調整され、陰血の滋養があってはじめて柔順・舒暢に疏泄を行うことができる。

(四) 他の臓腑と関係

1、心と肝（火—木）

心は血を主り、肝は血を蔵する。
心は神志を主り、肝は疏泄を主る。人間の精神、意識と思惟活動は心肝とも関係がある。

2、肺と肝（金—木）

主に気機の調節の面に、肝気の上昇、及び肺気の降下が相互にうまくかみ合って、人体の気機昇降の一つの重要な部分を構成している。

3、肝と脾（木—土）

肝の疏泄機能と脾の運化機能の間には相互に影響し合うものである。

又、血の生成、貯蔵及び運行などの面でも、肝と脾の関係は非常に密接である。

4、肝と腎（木—水）

肝は血を蔵し、腎は精を蔵すという。蔵血と蔵精の関係は、実際には精と血の間の相互資生、相互転化の関係を指している。

「肝腎同源」、「精血同源」

5、肝と胆

胆は肝葉の間にあり、肝胆の経脈はお互いに絡属して表裏関係をなしている。

胆汁は肝の余った気よりなり、胆汁の正常な排泄及びその作用の發揮は、いずれも肝の疏泄機能に頼っている。

三、肝の病理特徴

■ 肝気鬱結（疏泄機能の減退）

胸脇部・乳房・少腹が脹って痛む、胸苦しい・ため息、ゆううつ・抑うつ、生理不順など。

■ 肝気上逆（昇発し過ぎる）

眩暈頭痛・顔面紅潮・目の充血・のぼせ・いらいら・怒りっぽい、甚だしい吐血、喀血、意識障害。

■ 肝脾(胃)不和（肝鬱＋脾胃昇降失調）

肝鬱症状＋眩暈、食欲不振、下痢（肝脾不和）

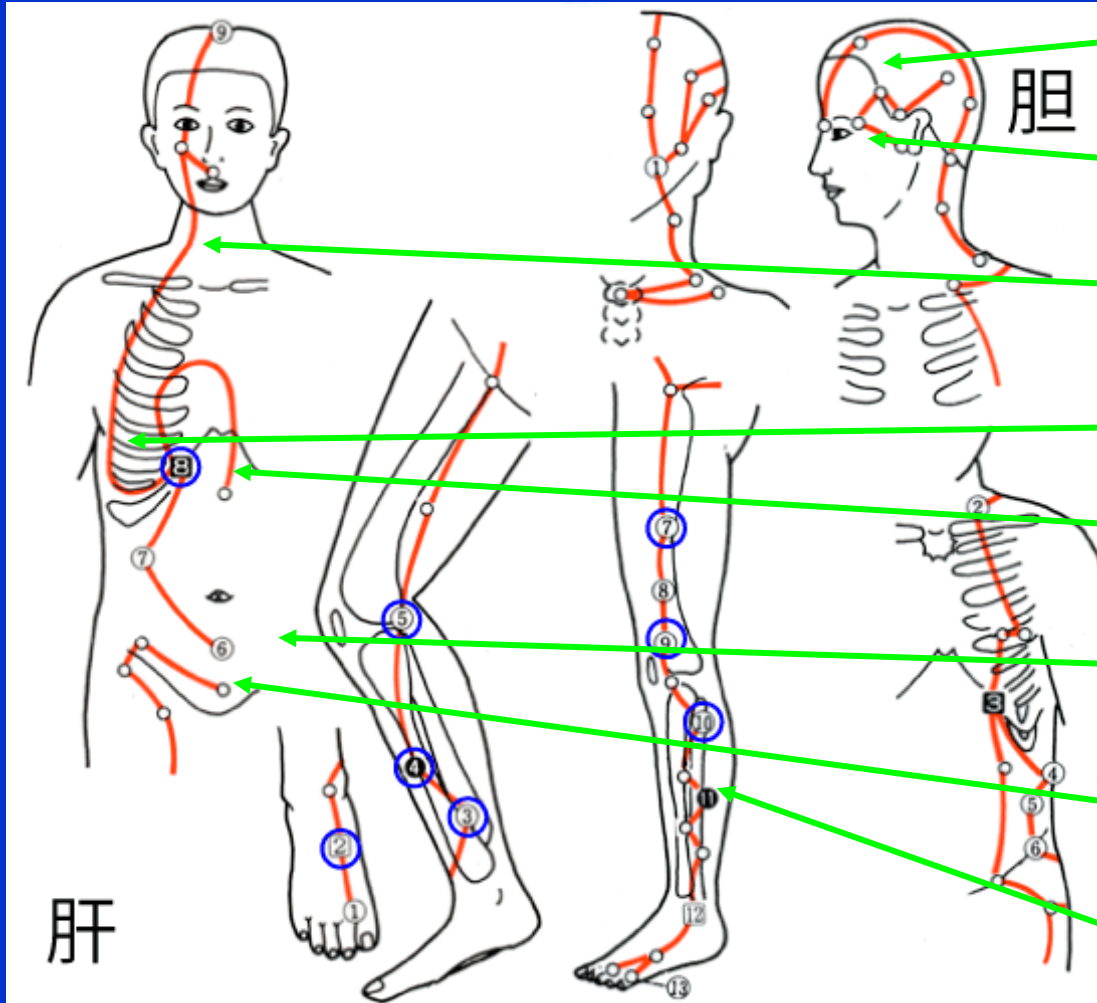
・ 十悪心嘔吐・腕腹脹痛便秘（肝胃不和）

• ■ 肝不藏血

- **血不榮目**：視力減退・目がかすむ・夜盲・目の乾燥
• 異物感
- **血不養筋**：筋肉のひきつり・けいれん・強直・震え
• 運動障害・しびれ
- **肝血不足**：経血量減少・月経不順・無月経・爪色淡く、脆くて薄くなる。
- **藏血失調**：出血・月経過多・不正性器出血



肝・胆経の病態



眩暈頭痛、イライラ、
怒りっぽい

目・耳の症状

喉が詰まり

胸脇苦満・ため息

心下痞満

生理不順、生理痛

外陰部炎症など

足がつりやすい

四、肝の弁証論治

肝気鬱結証

【症 状】 精神抑鬱、イライラ、胸悶でよくため息をつく、胸脇、少腹の脹痛、移動痛、舌苔簿白、脈は弦です。 女性には胸の張り、月経困難、生理不順、閉経など。或いは梅核気、或は頸部癭瘤（甲状腺腫など）、脇下痞塊等も見られます。

【治 法】 疏肝理気解鬱

【方 剤】 四逆散、逍遙散、加味逍遙散、半夏厚朴湯、柴胡疏肝散、

肝脾不和証

【症 状】 肝気鬱結症状（抑鬱イライラ、胸肋脹満感や疼痛）＋脾虚気滞症状（眩暈・食欲不振・腹痛下痢・腸鳴ガス）

【治 法】 健脾補気、疏肝理気

【方 剂】 加味逍遙散、当帰芍薬散、小建中湯、芍薬甘草湯、加味逍遙散

肝陽上亢証

【症 状】 眩暈耳鳴、頭部や目の腫脹、顔面紅潮、目が充血、のぼせ、イライラ、怒りっぽ
い、不眠、よく夢を見る、心悸健忘、足腰
がだるい、頭が重く足がふらつく、舌質
紅、脈弦、また細弦

【治 法】 滋陰平肝潜陽

【方 剂】 柴胡加竜骨牡蛎湯、杞菊地黄丸
天麻釣藤飲

肝火上炎証

【症 状】 眩暈頭痛、面紅目赤、口苦、口が渴く、いらいらして怒りっぽい、不眠多夢、脇肋灼熱痛、耳鳴が潮の如し、耳聾、或は吐血衄血、月経過多、便秘尿赤、舌紅苔黄、脈弦数

【治 法】 清肝瀉火

【方 劑】 竜胆瀉肝湯、三黄瀉心湯

肝風内動証

【症 状】 眩暈頭痛、耳鳴、いらいら、怒りやすい、顔が赤い、舌赤脈弦。或は、項がこわばり、肢体が痺れ、振るえる、或は言語不自由、うまく歩けない。或は突然卒倒し、人事不省となり、口や眼がゆがみ、半身不随、舌がこわばり、のどに痰鳴がある。

【治 法】 平肝熄風（清熱、養血、滋陰）

【方 剤】 釣藤散、抑肝散、芍薬甘草湯、七物降下湯、鎮肝熄風湯

肝胆湿熱証

【症 状】 脇肋脹痛、灼熱、或は痞塊があり、食欲不振、腹脹、口苦、吐き気、大便不調、小便短赤、舌紅苔黄膩、脈弦数か滑数です。 或は黄疸、寒熱往来、陰部の湿疹、灼熱搔痒或は睾丸腫脹熱痛、女性が帯下が黄色で臭い、陰部搔痒等が見られる。

【治 法】 清熱利湿、疏肝利胆

【方 劑】 竜胆瀉肝湯、茵陳蒿湯

肝血不足証

【症 状】 顔色蒼白、めまい、立眩み、多夢不眠、目がしびって疲れる、物がぼやける、手足のしびれ、筋肉のひきつれ、爪に色艶がない。女性は月経量が少なく色が薄いか無月経、舌質淡白で、脈細無力

【治 法】 補益肝血

【方 剤】 四物湯、帰脾湯、十全大補湯
加味帰脾湯、補肝湯

寒滯肝脈証

【症 状】 少腹部の冷痛が辜丸に放散、陰囊の収縮、疼痛、寒疝、手足が冷たい、舌苔白滑、脈沈弦或は遅

【治 法】 温経散寒、養血通脈

【方 剂】 当帰四逆加呉茱萸生姜湯、
当帰四逆湯、暖肝煎

肝の症状における参考処方

症 状	参考処方
ほてり、のぼせ	柴胡加竜骨牡蛎湯、抑肝散、加味逍遙散
咽喉違和感、胸痞え	半夏厚朴湯、加味逍遙散
手足の冷え	当帰芍薬散、当帰四逆加呉茱萸生姜湯、女神散
イライラ、抑うつ、	柴胡加竜骨牡蛎湯、加味逍遙散
頭痛、めまい	半夏白朮天麻湯、抑肝散、テンマ末
胸脇脹痛、食欲不振	当帰芍薬散、四逆散、加味逍遙散
月経不順、生理痛	逍遙散、加味逍遙散、温経湯
足の引きつり	芍薬甘草湯、

ご清聴ありがとうございました！

